

オレンジ世代

ポランティスアガイド

エールを送る人々③

新型コロナウイルス対策として風通しのいい状態で映画の上映会や音楽ライブ、オンラインイベントを行っている東京都大田区東蒲田の「キネマ通り商店街」にあるNPO法人ワップフィルム

の拠点「キネマフューチャーセンター」。今回はここをスタート地点として、自転車で西日本1周の旅に出た小林啓之さんを紹介する。

小林さんは9月6日から旅を始めた。写真。東蒲田、鎌倉、箱根、静岡、名古屋、三重、大

阪、神戸、明石、淡路島から四国へ、そして九州に渡り大分、宮崎、鹿児島。4日には桜島でキネマフューチャーセンターと

オンラインでつないでのトークショーを開催した。ちょうど出発して4週間、今回の旅の折り返し点だ。

今回の旅の直接のきっかけはコロナだった。「春頃は、ちょっととした情報や噂1つで右往左往していたけ

ど、本来の人間の能力はもっとすごいのではないかと思っていました。でも自分自身も自然を感じながら生きていない。その辺りがうまくつながるような、旅に行こう」と、小林さんはペダルを回して自分の足で進む自転車旅に出た。



NPO法人ワップフィルム
URL:<https://wupfilm.jimdofree.com/>
Facebook:<https://www.facebook.com/wupfilm/>

次の野望はゴミ拾いの旅

た。全てがぶっつけ本番のような形だ。

「旅という1つの台本の中にいるような感じです。スタートして3日目の箱根の峠越えは厳しかったけど、自転車も乗っているうちにコツを覚えました。体、心、頭が一致しているときは大丈夫。体が疲れたら、心や頭は休もうと考える」と小林さん。体、心、頭の一致は、「『マジランガーZ』のcockピットに人が乗り込むようなもの。頭の中には自分の意識があれば、体は自然に動く」という。

次の旅に向けての抱負もできた。「ゴミ拾いの旅に出たいです。瀬戸内海のきれいな海に大勢の人が集まっています。中だ。」

「人も同じ。生まれたときはみんないい人。元々は優しいものです」

これからは熊本、福岡、下関、山口、広島と、東蒲田のゴールを目指して旅は続く。もし途中で出会ったら応援を。そして今回のゴミ拾いの旅に興味があれば、アイデアや協力も募集

中だ。(松本佳代子)